

2021 (令和3) 年5月12日

「インドネシア語の接頭辞 *ter-*による受身文における動作主の表示形式」

発表者：佐近優太（東京外国語大学大学院博士後期課程）

本発表では、インドネシア語の接頭辞 *ter-*によって作られる受動文における動作主の表示形式について定量的に考察し、その選択要因を明らかにした。

インドネシア語には受動文を作ることができる接辞に接頭辞 *di-*と接頭辞 *ter-*があり、その動作主は基本的に前置詞 *oleh* “by” または前置詞無し(以下 *zero* 型) によって表示される。このうち、接頭辞 *di-* に関しては動作主表示についていくつかの研究が存在する(Jeoung & Biggs 2017; Jeoung 2020)。しかし接頭辞 *ter-* についての研究は乏しく、また接頭辞 *di-* における選択要因を直接当てはめることはできない。そこで本発表では接頭辞 *ter-* による受身文について、動詞の種類と動作主の性質に注目しコーパスを用いた定量的調査を行った。調査にあたっては Leipzig corpus collection (Goldhahn, Eckhart & Quasthoff 2012) から約 1500 万語のサブコーパスを使用し、ロジスティック回帰分析を用いて各要因がどの程度選択に寄与しているかを調査した。

	Estimate	Std. Error	z value	Pr(> z )		オッズ比	信頼区間(95%CI)	
(Intercept)	-0.81035	0.10136	-7.995	1.30E-15	***	0.4447	0.36386408	0.5414509
animate	<b>1.22043</b>	0.19289	6.327	2.50E-10	***	<b>3.38863</b>	2.33783700	4.9870043
wordcount	<b>0.20385</b>	0.02482	8.213	< 2e-16	***	<b>1.22611</b>	1.16918521	1.2886983
verbtype1	<b>-0.69725</b>	0.16274	-4.285	1.83E-05	***	<b>0.49795</b>	0.36031134	0.6824029
verbtype2	<b>1.41869</b>	0.20277	6.997	2.62E-12	***	<b>4.13172</b>	2.80508812	6.2235200
verbtype3	<b>0.98226</b>	0.21828	4.5	6.80E-06	***	<b>2.67049</b>	1.75328691	4.1346101
verbtype4	<b>1.15979</b>	0.16889	6.867	6.54E-12	***	<b>3.18926</b>	2.30106832	4.4651451
verbtype6	<b>1.70877</b>	0.45954	3.718	0.0002	***	<b>5.52215</b>	2.40276369	15.0066757
verbtype8	14.47403	252.98017	0.057	0.9544		NA	0.01405253	NA

オッズ比が 1 以上であれば *oleh* が、1 以下であれば *zero* 型が出現しやすいことを意味する。また Pr(>|z|) 値はそうした傾向が統計的に有意であることを示す。結果は 3 点にまとめられる。第一に、動作主が有生物の場合、無生物である場合よりも *oleh* の出現率が上がる。第二に、動作主の語数の多い方が *oleh* が出現しやすい。第三に動詞の種類に応じて *oleh/zero* 型の選択が大きく変化する。具体的には *terancam* 「脅かされる」、*terinfeksi* 「感染させられる」など通常自然に起こると見做される事態を表す動詞(verb type 1)では *zero* 型が、*terganggu* 「邪魔される」、*terbunuh* 「殺される」など動作主の働きかけが強く感じられる動詞(verb type 2, 3)では *oleh* が出現しやすくなる。また *terlihat* 「見える」、*terkesan* 「感じられる」などの知覚動詞・認識動詞(verb type 4, 6)では *oleh* が出現する確率が非常に高い(オッズ比が大きい)が、これは類似構文との意味的あいまい性を排除するために *oleh* の出現が半義務的であるためである。

#### 参考文献

Goldhahn, Dirk. & Thomas, Eckart. & Uwe, Quasthoff. 2012. “Building large monolingual dictionaries at the Leipzig Corpora Collection: From 100 to 200 languages.” *Proceedings of the Eighth International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC’12)*. 759–765. / Jeoung, Helen. 2020. “P-Drop across Languages of Java: A Field Report.” *NUSA: Linguistic Studies of Languages in and around Indonesia* 69. 27–41. / Jeoung, Helen, and Alison Biggs. 2017. “Variants of Indonesian Prepositions as Intra-Speaker Variability at PF.” *University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics* 23 (1). 83–92.